

第3回（仮称）後谷湿地再生検討分科会 概要

日時：2024年6月18日（火） 13:00～15:00

参加者：14人（9人欠席） 傍聴者なし

開催方法：ウェブ会議システム（ZOOM）

次第

1. あいさつ
2. 議事
 - （1）後谷の将来像と維持管理について
 - （2）第2回分科会での鉄道・運輸機構提出資料への質問と回答
3. 次回以降の日程と内容の確認

資料

- ・第3回分科会次第
- ・第3回分科会参加者名簿
- ・水田案以外の湿地型の提案（4案）
- ・東海地方に見られる既存の湿地の景観
- ・既存の湿地型ごとの環境と植生の比較（愛知県犬山市田口洞湿地の例）
- ・水田案、及び代替案の評価及び採択基準案
- ・後谷湿地再生検討分科会 説明資料（鉄道運輸機構）

1. あいさつ

分科会会長より、第3回分科会の次第および議事について説明

2. 議事

（1）後谷の将来像と維持管理について

- ・会員から提案があった水田以外の湿地型について、その内容を共有。
- ・実際の湿地の景観や植生の比較などを参考にしながら、湿地タイプの比較表に新たな評価項目（安全性、持続性、景観、浸水性など）を追加し、更新版を作成する。
- ・分科会会員は次回分科会までに更新された湿地タイプの比較表に意見や評価を記入する。

（２）第２回分科会での鉄道・運輸機構提出資料への質問と回答

- ・2024 年中に盛土撤去を終え、2025 年第 1 四半期に自然復元工事を終了するスケジュールが示される。
- ・工事終了後 1 年間の生物相調査及びモニタリング調査の実施を予定。

後谷の将来像と維持管理について議論が行われ、湿地の回復と生態系の保護が主な目標として挙げられた。プロジェクトの進捗状況と今後のスケジュールについても話し合われ、現場視察の重要性が強調された。参加者は、伐採作業の予定や方針決定の期限、図面の改善などについて合意した。

次のステップ

- ・事務局: 湿地タイプの比較表に新たな評価項目（安全性、持続性、景観、浸水性など）を追加し、更新版を作成する
- ・参加者全員: 更新された湿地タイプの比較表に意見や評価を記入する
- ・事務局: 7 月上旬～中旬に現地視察の日程を調整し、参加者に連絡する
- ・鉄道・運輸機構: 現地視察時に、工事計画や安全対策について詳細な説明を行う
- ・事務局: 第 4 回分科会（7 月中旬～下旬）の日程を調整し、参加者に連絡する
- ・参加者全員: 8 月末までに湿地再生の方針（タイプ）を決定するよう議論を進める
- ・鉄道・運輸機構: ボーリング調査の結果が出たら、分科会メンバーに共有する
- ・鉄道・運輸機構: 施工計画（工事の順序など）の詳細が決まり次第、分科会で説明する
- ・事務局: 現地視察に参加できない人のために、現場の写真や映像を撮影し共有する

後谷の湿地の復元

湿地再生検討分科会では、後谷の将来像と維持管理について議論が行われる。会議では、北陸新幹線工事の影響で減少した水量への対策として行われた盛土撤去後の埋め立て地の再生方法や、かつての田んぼの状況、ホタルの生息状況などが確認される。最終目標として、過去に失われた後谷の湿地とその機能を回復し、ヘイケボタルなどの生息環境を整えることが挙げられる。

伐採作業の現場視察

会議では、プロジェクトの進捗状況と今後のスケジュールについて議論が行われた。現場視察の重要性を強調し、7 月中旬頃に予定されている伐採作業の前に現地を確認することを提案した。鉄道運輸機構の代表者は、7 月下旬から伐採作業を開始する予定であることを説明し、8 月末までにプロジェクトの方針を決定することを希望した。また、参加者は図面の改善や追加意見の収集について合意した。